キャラクター名
一条　清正

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	陰陽師	カヴァー	商人
オプショナル		年齢	18	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	恐怖	初期侵食率	33 %
出自	権力者の血統	経験	大恋愛	邂逅	好敵手（任意）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	0			7
感覚	0		1			1
精神	0		1			1
社会	2		0			2

HP	35
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
安綱	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
父親	P　尊敬	N　嫉妬		
酒呑童子	P 好奇心	N　脅威		
勤め先の娘	P　憧憬	N　偏愛		
アヤメ	P　純愛	N　偏愛		
橘	P　好意	N　憐憫		
蛍	P　庇護	N　不安		
カミサマ	P　感服	N　嫉妬		

最大財産P:　6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：いつもの								
獣の力	4	2	メジャー	武器	-	対決〈白兵〉	-	
効果：このエフェクトを組み合わせた攻撃の攻撃力を+［Lv×2］する。								
ハンティングスタイル	2	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：あなたは戦闘移動を行う。この移動では、離脱を行える。また、移動中に他のエンゲージに接触しても移動を終える必要はなく、封鎖の影響も受けない。1シーンにLv回								
完全獣化	5	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：このシーンの間、【肉体】の能力値を使用したあらゆる判定のダイスを+［Lv+2］個する。ただし、このエフェクトが持続している間、素手を除くアイテムはすべて装備、使用不可となる。								
ワイルドグロース	2	3	セットアップ	至近	自身	自動	リミット	
効果：このエフェクトを使用することで、あなたは《完全獣化》を使用できる。1シナリオLv回								
進化の大爪	5	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：完全獣化の効果中のみ使用できる。そのラウンドの間、あなたの白兵攻撃の攻撃力を+［Lv×3］する。								
フルパワーアタック	5	4	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果：　そのラウンド中にあなたが行う白兵攻撃の攻撃力を+［Lv×5］する。ただし、そのラウンドの間あなたの【行動値】は0になる								
ターゲットロック	5	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果：そのシーン中、あなたが対象に攻撃を行なった場合、攻撃力を+［Lv×3］する。「対象：範囲」のように、対象以外のキャラクターを含めて攻撃する場合、この効果は適用しない。								
獣の直感	★							
効果：天候予測　地震も予測								
眠れる遺伝子	★							
効果：獣の姿に常時なれる								
至上の毛並み	★							
効果：ふわふわ								
効果：								
効果：								

父親から陰陽師としての道を学び、それに憧れを覚え自身も陰陽師として生きる。

普段は「眠れる遺伝子」で勤め先や寮の飼い猫、もしくは野良猫として振舞っている。

数年前の勤め先でとある娘と出会い、一目惚れするもあっさり玉砕。その後は影から見守る形で彼女を守っていたが、ある日突然勤め先に賊が襲撃。主人を守ることには成功するが、仕事を優先した結果目の前で娘を死なせてしまう。
主人を無事守りきったため彼の仕事の評価は上がるが、彼は今でも娘さんを守ればしなかったのかと後悔している。
その時の彼の複雑な感情からか、記憶の中の娘が少し歪んだ憧れを含んでいる。

「いっそ封印されて、良かったのかも知れねぇなぁ・・・
俺には娘ちゃんとアヤメちゃんを選ぶなんて、できなかっただろうから。
それに、一緒に封印されたやつもいるから寂しくはないしな。」